

新図書館＋複合施設に ついてのワークショップ



取手駅前にできる新図書館＋複合施設について、参加者みんなで考えるワークショップを実施しました。市民向け、高校生向けの全3回のワークショップの様子をお届けします！

本ワークショップの位置づけ

現在、新図書館＋複合施設の基本計画を策定するにあたり、市民の皆様の意見を反映するためのワークショップ(以下、WS)を開催しました。

前段となる令和7年に策定した基本構想においては、取手駅西口で計画される再開発事業の中で、図書館と市民交流・市民活動支援機能を掛け合わせた複合公共施設を目指すことが謳われています。

今回のWSでは、そのような「図書館×〇〇〇」という新しいタイプの図書館をつくるからこそ、**本来の図書館の骨格である「本」について考えることからスタートし、それだけではなく、まちとのつながりも含め議論していきました。**

7月26日(日)に第1回WS、8月2日(日)に第2回WSを開催し、その間の7月28日(火)に「とりでこども未来会議2026」として高校生WSを実施しました。その様子をお伝えします。

各ワークショップのテーマ

施設の 中 から考える

第1回 市民ワークショップ (7月26日(日)) 「本の魅力はどうすれば人に届くのか」

本との新しい出会い方や本をきっかけに生まれる活動等を考えることで、新施設に必要なサービスや空間のヒントを見つけました。

→ P.2~5

施設の 外 から考える

第2回 市民ワークショップ (8月2日(日)) 「図書館はまちとどのようにつながることができるのか」

図書館と地域との新しいつながり方を考えることで、新施設が地域に果たす役割や、まちへ広がるサービス・空間のヒントを見つけました。

→ P.6~11

本 とは何かを 考える

高校生ワークショップ (7月28日(火)) 「本の可能性を探る」

本を使ったワークを通じ、本から広がる可能性について体感することで、新施設に求められる機能のヒントを見つけました。

→ P.12~15

第1回市民ワークショップ

テーマ 本の魅力はどうすれば人に届くのか



30代～70代まで幅広い年代の方々26名が参加され、それぞれ5～6名程度の5テーブルに分かれ、ワークを行いました。特に50代～60代の参加者が多く、大人の雰囲気が漂いつつも、活発な議論が行われたにぎやかな会となりました。

冒頭、取手市中心市街地整備課より再開発全体の説明と、図書館＋複合施設の基本構想についての説明の後、講師の㈱ひらく代表の染谷拓郎氏より、「本からひらかれる場について」というテーマで、紙の本の価値が変容してきた現代において、どのように新たな本の価値と出会いを創出しているかの実践をお話いただきました。その講演を経たのち、ワーク1では「本の価値とは？」、ワーク2では「その価値をどう伝えるか？」というテーマでワークを行いました。

開催日時 2026年7月26日(日)
14:00-16:00

講師 株式会社ひらく代表取締役社長
染谷拓郎氏

参加人数 26名

場所 ニチガス取手
ウェルネスプラザ
セミナールーム



「本と人をつなぐ空間づくり」を軸に、文化施設や書店、公共空間の企画・プロデュースを手がける。「箱根本箱」や「文喫」などを通じ、読書を中心とした滞在体験を提案し、新たな書店や文化施設のあり方を示している。

結果① 本の価値とは？

全グループの回答をカテゴリー別に分類し整理したものの一部を掲載しています。

知識・情報源

- 情報源がわかる(参考文献ある)
- 知らないこと、人に会うことができる
- 自分の知りたい情報や、知識を得ることができる
- 歴史の証人
- 本棚を眺めているうちに新しい興味がわいてくる など

人生・心の支え

- 本の中で自分の考えを整理できる
- エンパワー、元気をもらう、自信もゲット
- 時間を大切に過ごしている気がする
- ほかのことを忘れられる場所 など

想像力の拡張

- 別の世界への扉
- 世界が広がる
- 追体験
- 絵と言葉から想像が広がる
- 体験を感じられる など

物体だからこそ

- 紙をめくる楽しみ
- 現物で伝えられる
- 絶版本など古いものの出会い
- 何度でも読み返すことができる
- 読みながら戻ったりしやすい など

向き合い方

- 自分のスピードで読める
- 読み手主導
- 声を出しても出さなくてもOK
- どんな状態でも向き合える
- 絵本読み聞かせ など

面白さ・楽しみ

- わくわくが得られる
- いろいろな本、雑誌を読むとおもしろい魅力がある
- 時間つぶし
- 楽しい時間をもてる
- 没入感 など

コミュニケーションツール

- 感想を聞ける
- 他者を知る
- 思い出が語り合える
- 人と貸し借りができる など

芸術・文化的価値

- 装丁のすばらしさ
- 作家独特の文体の美しさ
- 総合芸術品
- 展開と挿絵
- 行間から受け取れる作品の良さ など

結果② その価値をどう伝えるか？

本の紹介

- 本のソムリエ
- ポップのようなものを付ける
- 心に残った本を人と話す
- AIによる本の推薦サービス
- 作家さんのコメント動画 など

場所・空間の工夫

- 子どもが寝転がりながら読める広い場所
- ゆっくりとくつろいで本を手にとれる
- 人のたまり場に本を置く
- BGMが選べる図書館
- 本を読みながら、お茶を飲みながらゆっくり過ごせる など

体験と本をつなげる

- イベントに関連本を置く
- 読書に合う飲み物コンテスト
- 読書会
- 作家の方に講演してもらう
- 幼少期からの読み聞かせで本への愛着がわく など

SNSの活用

- 毎日LINEでおすすめの本を紹介
- LINE図書館をつくる
- 要約動画から本紹介へつなぐ など

本の魅力訴求

- インテリアとして
- アンダーライン付き など

制度・仕組みの工夫

- 24時間開館／返却
- 本の紹介でポイント付与
- 本を売る(営業) など

まとめ

- 「本の価値とは？」については、「(信頼ある)知識・情報源」という本そのものの役割に加え、「人生・心の支え」「想像力の拡張」といった、普段、本に親しんでいる中で出てきた価値感、あるいは「触れることが出来る物体だからこそ」の価値観といった、デジタル化社会における、紙の本の役割の再確認といった内容も多く、12頁からの高校生WSでの意見と対比しても面白い結果となっています。また「コミュニケーションツール」としての本の価値を見出す意見が多かったことに注目です。いずれにしても本の価値は社会の変容と共に多様化していると言えます。その様々な本の価値をどのように新図書館では人々に発見してもらえるかを検討していく必要があります。
- 「その価値をどう伝えるか？」については、「人(図書館員、作家、著名人含む)による本の紹介」、「SNSの活用」など何らかの人の介在による伝達が意見としてあがったほか、「場所・空間の工夫による本へ到達する機会の創出」といったハード的な側面での工夫も多くあがりました。特に場所・空間については、そこから「本のある場所に行きたくなる工夫」「本のある場所の中で手に取りやすくなる工夫」「人が集まる場所や図書館以外に本を置く工夫」といった意見にまとめられます。また、「体験(イベント含む)と本をつなげる」といった活動と本をうまくつないだり、「制度・仕組みの工夫により、本に触れる機会をつくる」といった意見もあり、新たな図書館活動や施設計画のヒントとなるアイデアが多数出されました。



次のページで、各グループの回答と結果を詳しく掲載しています。

第1回市民ワークショップ 資料

ワーク1

本の価値とは？

A班

- ・ 人生の書
- ・ 自分の人生に欠かせないもの
- ・ 本を通して、思い出を作ることができる
- ・ 自分好きを追求
- ・ 自分を振り返るため
- ・ 好きな作家の発見。本を読まないなんてもったいない！
- ・ 一人時間を楽しむ
- ・ わくわくが得られる
- ・ 別の世界への扉
- ・ 現物で伝えられる
- ・ 想像力が試される場所
- ・ ほかのことを忘れられる場所
- ・ 心が、いやされることができる
- ・ 自分の知りたい情報や、知識を得ることができる
- ・ 物感で知識を得ることができる
- ・ 情報が少ない
- ・ 総合芸術品

- ・ 不変
- ・ 活字
- ・ 振り返ることができる
- ・ 興味のある部分を繰り返し読める
- ・ 自分で買えば書き込みできる
- ・ 資産になる
- ・ 漫画だって小説より面白い！
- ・ 読み手主導



B班

- ・ 時間つぶし
- ・ 追体験
- ・ 行ってみたいところへ行く計画が立てられる
- ・ 人と貸し借りができる
- ・ 「薔薇の名前」(ウンベルト・エーコ)
- ・ 本の紙質の変遷
- ・ 紙をめくる楽しみ
- ・ 絵本読み聞かせ
- ・ 展開と挿絵
- ・ 没入感
- ・ 知らないことがわかる

- ・ 教科書
- ・ 歴史の証人
- ・ 知識の習得
- ・ 自己満足



C班

- ・ ネットの情報よりは信頼できそう
- ・ 情報源がわかる(参考文献がある)
- ・ 時代に応じた確かな情報
- ・ 昔の人の意見が知れる
- ・ 流し読みができる
- ・ 間違えて消去してしまうことがない
- ・ 気に入った本を本棚においていつでも繰り返し読める
- ・ 忘れてしまえる
- ・ 何度でも読み返すことができる
- ・ 繰り返し読むことで刻み込まれる感じ
- ・ 読破した手ごたえを感じられる
- ・ フィーリングを生かせる
- ・ ジャケ読みが出会いになる
- ・ 行間から受け取れる作品の良さ
- ・ 質感、装丁、文字の書体を手で感じ取れる
- ・ 感想を聞ける
- ・ 本を通してこれからの行動が変わる
- ・ 知らなかったことを教えてくれる

- ・ 自分のペースでつきあえる
- ・ 自分のペースで読める
- ・ 世界が広がる
- ・ どんな状態でも向き合える
- ・ 何十年後に読み返せる
- ・ 楽しい時間を持てる
- ・ AIだけではつまらない
- ・ 本の中で自分の考えを整理できる
- ・ 心を映す

D班

- ・ 話に没入して楽しめる
- ・ 筆者、著者との深いコミュニケーション
- ・ 旅費無料
- ・ 時間つぶし
- ・ 絵と言葉から想像が広がる
- ・ 心を整えるツール
- ・ 精神安定剤
- ・ エンパワー、元気をもらう、自信もゲット
- ・ ちょっと一息
- ・ 頭と心の整理整頓
- ・ 共時性…このタイミングでこの本に出会うとは、命や宇宙のフシギを感じて↑↑
- ・ AIより深いタイトル
- ・ 液晶じゃない
- ・ 装丁の素晴らしさ
- ・ タブレット貸出
- ・ 読みながら戻ったりしやすい
- ・ 自分のスピードで読める
- ・ メディア(媒体)
- ・ 旅行代理店、旅先案内人
- ・ 専門家大集合
- ・ 世界を知る
- ・ 地域の文献などネットにない歴史を知ることができる
- ・ 人生の教師。言語を覚えるのには読み聞かせ、特に子ども

- ・ 他者を知る
- ・ 知的好奇心の探求
- ・ 歴史を知る
- ・ 新しい視座、世界観との出会い
- ・ 活字や図、絵など視覚に訴えられやすい
- ・ 出版物は情報の信憑性が高いので、調べものに良い
- ・ 本棚を眺めているうちに新しい興味がわいてくる
- ・ 形になるまでに検査されている(と思いたい)



E班

- ・ 友人とおすすしめし合える
- ・ 本好きと話が弾む
- ・ 思い出が語り合える
- ・ 声を出しても出さなくてもOK
- ・ 一人でも誰かとでも
- ・ 人と話すのと同じくらい影響を受けられる
- ・ 自分なりに理解してOK
- ・ 自分のペースで情報が取れる
- ・ 体験を感じられる
- ・ 作家独特の文体の美しさ
- ・ いろいろな本、雑誌を読むとおもしろい魅力がある
- ・ 物語を読むわくわく
- ・ 新たな視点を得られる
- ・ 著者の思いや考えを知ることができる
- ・ 読むことで考え始める
- ・ 自分のイメージを広げられる
- ・ 知らないことを知ることができる
- ・ 本に書き込める
- ・ 本をめくる質感は画面スクロールと異なる
- ・ 時間を大切に過ごしている気がする
- ・ 愛着がわく
- ・ 読み終わった後にいろいろな思い出が出てくる
- ・ 本は開いてみると意外と面白い(図鑑とか)
- ・ 新しいことを始めるには本が一番便利、体系的にまとまっている

- ・ 知らない世界へ行ける
- ・ 知らないこと、人に出会うことができる
- ・ 「そこにある」(目に入る)
- ・ ページをめくるのが楽しい
- ・ 思い出のリアルなマテリアル
- ・ 絵だけでもOK
- ・ 知識を一冊のものとして保管できる
- ・ 絶版本など古いものの出会い
- ・ 美術的な楽しみ
- ・ 見た目の美しさ
- ・ 並べて俯瞰的に比較できる

ワーク2

その価値をどう伝えるか？

- ・ 本のソムリエ
- ・ 気持ちによりそった本が見つかる
- ・ オーバーに語る
- ・ 語りかける
- ・ わかりやすく本を紹介
- ・ 学校とのタイアップ
- ・ 書評を紹介する
- ・ 本を読まない人にとって一番興味のあることが書かれた本をおすすめ
- ・ グループで読む
- ・ ランキングを作って知らせる

- ・ あえてマニアックにする
- ・ 幼少期からの読み聞かせで本への愛着がわく
- ・ 子どもと大人で別の読み合わせの会を催す
- ・ 子どもが家族の人に本を読む
- ・ 自分の読み方を見せる
- ・ 何人かで受け持って読み聞かせ
- ・ 駅の貸し出し文庫
- ・ 室内がおしゃれ
- ・ スーパーのおやすみ所
- ・ サロンに本を置く
- ・ 駐車場が広い

- ・ 本に囲まれているだけの空間
- ・ 昼寝できる
- ・ ゆっくりとくつろいで本を手にとれる
- ・ 字のない図書館(活字が苦手な人も使える)
- ・ 無理強いはいしない
- ・ 24時間返却
- ・ 映画の原作
- ・ 映像作品もOK
- ・ 来館ポイント制にする



- ・ 本を売る(営業)
- ・ 高く売れるよって渡す
- ・ ポイントを付けてサービス
- ・ 新しい本よりも入手できないような本を読める
- ・ 図書館
- ・ 作家の方に講演してもらう
- ・ ステージアップした読み聞かせ
- ・ 人のたまり場に本を置く

- ・ ○○君も持ってるよと言って買ってもらう
- ・ アンダーライン付き(だと読みやすい)
- ・ タダであげる
- ・ 心に残った本を人と話す



- ・ POPをつくる
- ・ PRをする
- ・ 読書会
- ・ 朝の10分読書
- ・ 著者のプロフィールから知らせる
- ・ 著者の方からの本の魅力を伝えてもらう
- ・ 話題とマッチングさせる
- ・ 時事ネタに関連させる
- ・ 追体験ができるから時空が違って

- ・ AIによる本の推薦サービス
- ・ 今まで読んできた本を聞いて選書してあげるサービス
- ・ タイトル+内容を具体的に説明
- ・ 毎日LINEでおすすめの本を紹介する
- ・ 年代ごとのランキング
- ・ 水を触っているような手触りの本
- ・ インテリアとして
- ・ 装丁の美しさ
- ・ 開くと香りがする本

- ・ 角度によって表紙の色が変化する本
- ・ 本を読みながら、お茶を飲みながらゆっくりすごせる場所をつくる
- ・ 経験の共有
- ・ 星を見る、とか体験と本をつなげる
- ・ 老人施設に本を読みに行く
- ・ 駅で借りられるようにする。不要本の持ち帰りもOKにする。



- ・ 司書のおすすめ本セットの貸出
- ・ ポップのようなものを付ける
- ・ AI検索の充実
- ・ 電車の中でブックカバーをかけないで立つ読む
- ・ LINE図書館をつくる
- ・ SNS
- ・ ブクログ取手バージョンでおすすめ共有
- ・ 市民転入時にアカウント登録
- ・ 購入もできるように
- ・ 親子向け紙芝居の読み聞かせ
- ・ ねぐらで横になって読書
- ・ 市民は一人一冊購入希望できる
- ・ ブックカバー有料化

- ・ 子どもが寝転がりながら読める広い場所
- ・ タブレット貸出
- ・ 最高に読みやすい椅子がある！
- ・ 新着本の紹介を図書館以外で掲示
- ・ 装丁デザイナーごと、イベント
- ・ この本にはこのカバーこのしおりコンテスト
- ・ 読書に合う飲み物コンテスト
- ・ 取手図書館対象
- ・ 24時間開館
- ・ 市民の導線を中心に図書館を置く
- ・ 討論会場
- ・ おいしいチーズ食べ比べコーナーとチーズの本
- ・ 図書館アプリをもう少しわかりやすく

- ・ 図書館1wk全部一つのジャンルにする
- ・ 新着本を図書館LINEで紹介
- ・ 参考書をそろえる(購入すると高いけど不要になるまで短いから)
- ・ おすすめ本「セット」コーナー
- ・ 無人貸出
- ・ 本を探しやすい配置を工夫する
- ・ テーマでまとめコーナー
- ・ マッサージチェア
- ・ サウナ
- ・ 岩盤浴



- ・ 本の通帳を作る
- ・ 本のブックカバーを作る
- ・ クッキング教室+本
- ・ 絵や刺繍など、図書館で色々体験会
- ・ お化け屋敷、演劇、コンサートなどのイベント
- ・ エコブックの福袋
- ・ BGMが選べる図書館
- ・ ビブリオおすすめ会
- ・ ランダムな本を選んで、みんなで引いた本を紹介するゲーム
- ・ 本の理解会
- ・ 大人だって絵本を面白く読めるよ

- ・ 子どもも大人もおはなし会
- ・ 薄い・短い・絵のある本・雑誌を集める
- ・ 待ち時間、移動中のレンタル図書館
- ・ 本の紹介でポイント付与
- ・ 本のサブスク(自分好みのジャンル+α)で定期的に届く
- ・ イベントに関連本を置く
- ・ 夏休みの宿題資料探しをみんなで(VIVAオープンデー)
- ・ 要約動画から本紹介へつなぐ
- ・ 作家さんのコメント動画
- ・ 作家×作家のトークショーの後、サイン会
- ・ 怪談作家の怪談トークショー
- ・ 本が嫌いな人がすすめるベスト100
- ・ 人気ドラマ大特集



第2回市民ワークショップ

テーマ

図書館はまちとどのようにつながることができるのか



10代～80代までの幅広い年齢層の方々24名が参加し、5テーブルに分かれ議論しました。親子でのご参加や、1回目に引き続いての参加の方もおり、和やかな雰囲気で行いました。

1回目同様、冒頭、取手市中心市街地整備課より再開発全体の説明と、図書館＋複合施設の基本構想についての説明の後、講師の建築家・東京藝術大学准教授・RFA主宰の藤村龍至氏より、「図書館とまちのつながり」というテーマで、図書館の中だけではなく、まちとどう関わっていくのかを、これまでの図書館とまちづくりの関係の歴史的経緯や、藤村氏が手掛けてきた実践例を基にお話いただきました。

その講演を経たのち、一人ひとりの「取手のお気に入りスポット」の選出と、「そのスポットと図書館をどうつなぐか？」という、図書館や本だけではなく、様々な観点からどのようにまちと図書館がつながっていくのかを議論しました。

開催日時

2026年8月2日(日)
14:00-16:00

講師

建築家・東京藝術大学准教授・RFA主宰
藤村龍至氏

参加人数

24名

場所

ニチガス取手
ウェルネスプラザ
セミナールーム



建築家。東京藝術大学准教授。RFA 主宰。公共施設や都市再生プロジェクトにおいて、制度・事業・空間を横断する設計を実践。十津川村災害対策本部拠点施設、小高パイオニアヴィレッジなどを手がける。近年は、図書館や複合施設を含む公共事業において、市民参加から事業化・設計までを一体的に構想するプロジェクトを展開している。

結果① 取手のお気に入りスポット

全グループの回答をカテゴリ別に分類し整理したものを掲載しています。

自然

- ・ 豊田堰／岡堰
- ・ とがしら公園／取手緑地運動公園
- ・ 小貝川の土手／利根川沿い河川敷
- ・ 小堀の渡し
- ・ 筑波山が見える田んぼ など

取手の名物施設・地域

- ・ 東京藝術大学取手キャンパス
- ・ たいけん美じゅつ場VIVA
- ・ 常陽建設ふじしろ図書館
- ・ 埋蔵文化センター
- ・ 高井城跡地 など

商業施設

- ・ 市内のカフェ／こなのか／マナシ／取手駅前飲食店／池田屋
- ・ キリンビール工場 など

イベント

- ・ 利根川花火大会
- ・ ニチガス取手ウェルネスプラザのイベント
- ・ 市民会館のイベント
- ・ つるしびな ひなまつりイベント など

結果② そのスポットと図書館をどうつなぐか？

図書館の中で

- ・ 壁画(アート作品)の公募 取手に関する絵のしおり・ブックカバー配布
- ・ 東京藝術大学のワザの体験会
- ・ 図書館内にスイーツポップアップストア
- ・ 花火大会の開催1か月前から特集やデジタルアーカイブ
- ・ 図書館にて高校生とシルバーのふれあい など

図書館ネットワーク・役割分担

- ・ ふじしろ、戸頭、両図書館との役割、ネットワーク
- ・ 保育園で図書館につれていく習慣づくり など

図書館の内外で

- ・ さくら荘さくらまつり 新図書館で見学ツアー
- ・ (各場所・施設の)秘蔵品の巡回(展?)
- ・ 公園の樹木の名まえ 由来を図書館で調査 など

図書館の外で

- ・ 体が不自由な方への移動図書
- ・ 坂道スタンプラリー
- ・ 土手から図書館までの道を整備
- ・ 駅前にゆっくり本を読めるカフェを作る
- ・ 関東鉄道の走る図書館(イベント) など

まとめ

- ・ 「取手のお気に入りスポット」については、小貝川や利根川、筑波山が見える田んぼなどの「自然」、そして、東京藝術大学、キリンビール工場、VIVAなどの「取手の名物施設」、カフェや老舗のお店を含む「商業施設」、花火大会やジャズフェスなどの「イベント」、そのほか公園や公共施設など、市内全体の様々な場所が出され、市内の多くの魅力的なスポットが挙げられました。
- ・ 「そのスポットと図書館をどうつなぐか？」については、「図書館からそのスポットへ」、「そのスポットに関係することを図書館の中で」、「双方で」といったつながり方に分けられ、「図書館からそのスポットへ」では、カフェなどの店舗や、まちの中に本を置く仕組みづくり、「図書館の中で」では、図書館内でのお気に入りスポットの紹介にとどまらず、商店・企業と連携したイベントなどの開催、「双方で」では、駅前のジャズイベントなどと連携し、図書館の中でもそれに関連する催しなどの意見がありました。
- ・ また、市内全体で取手図書館・ふじしろ図書館・戸頭公民館図書室の役割の整理やそれぞれのネットワークをどのようにしていくかといった意見も見られ、新図書館の中だけではなく、新図書館が、まち全体にどのように波及していくのかを考えるきっかけとなりました。



次のページで、各グループの回答と結果を詳しく掲載しています。

第2回市民ワークショップ資料

ワーク1 取手のお気に入りスポット

ワーク2 そのスポットと図書館をどうつなぐか？

- ワークでは、取手市の白地図にお気に入りスポットなどの意見を書いた付箋を貼っていきながら対話を進めていきました。全グループ合わせて約130個ものお気に入りスポットが集まりました。
- ワーク1とワーク2で出た意見をグループごとにまとめています。



A班

①取手のお気に入りスポット

- 藤代 小貝川の土手**
常陽建設ふじしろ図書館の裏手の小貝川の土手を歩くのがとてもきもちよく落ち着きます
- 東京藝術大学取手キャンパスの特に河川敷**
上野キャンパスにはない自然 ワイルド 無垢 ピュアさ
- 花火大会が行われる土手** 広々としていていい。気持ちが清々する
- 利根川** 毎年花火大会がある
- 緑道** シバザクラがきれい
- 埋蔵文化財センター** 郷土資料の宝庫
- マナシ** ナン・カレーがおいしい
- 取手緑地運動公園**
駅や図書館に行く際に通る・景色が綺麗(空・川・草木) 静かで落ちつく
- 八坂神社周辺の街並**
昔からある建物なども含めてこの通りの街並が風情があって良い
- (小堀の渡し)舟つき場**
利根川の大自然と川向こうの古利根地区が楽しめる
- IN MY GARDEN** 作品そのものが好き
- 取手駅** 勉強ができる
- たいけん美じゅつ場VIVA**
・本が置いてある ・勉強や休憩に使える
・図書館の自習室より入りやすい雰囲気
- その他、図書館周辺**

②そのスポットと図書館をどうつなぐ？

遊歩道の途中、東屋などあれば図書館に続く道(がにぎわう)

土手から図書館までの道を整備

取手図書館(2F)から花火がみられるイベントがあるといい

景色を見ながら本を読む→椅子の設置？
→読書会？(取手周辺の本)現地に
行って本読む

各地域(施設)の活動家の共同ラボ

図書館でもカレーが食べられるようになってほしい

公園で運動した人が休めるスポット→
クーラー、タオル、ロッカーを図書館に

昔の取手の街並をポスターにして
図書館に

壁画(アート作品)の公募。図書館で取手に関する絵のしおり・ブックカバーの配布

・(各場所・施設の)秘蔵品の巡回(展?)
・サイン、材質などそろえていく。
・いいところ巡るツアー
・移動図書館(コトバス復活?)



B班

①取手のお気に入りスポット

- 筑波山が見える田んぼ(駒場)** 空が広い 遠くまでよく見える
- ぼくと私のクロワッサン**
店主が1人でがんばっている とてもおいしいクロワッサンのお店(東口からすぐ)
- 東京藝術大学** やぎがいる
- 東京藝術大学取手キャンパス陶芸の部** 先端芸術体験
- 麒麟ビール工場** 工場見学が楽しかった
- 埋蔵文化財センター** 郷土の歴史
- 小文間** ふんいき←なんとなくちがう
- 取手市民会館** 音楽コンサート
- 岡堰** 広くて静か 桜きれい 岡堰は、造りがカッコいい 渋い
- 長禅寺** 木に囲まれて気持ちいい
- 八坂神社** 時々おまいり行きます
- アトレ取手** VIVA 4Fの
- 小堀の渡し**
舟に乗るコースは短い海までつながることに思いをはせると楽しい。
川下りツアーで海に行きたい。／船に乗る楽しみ
- とがしら公園** 緑が多い。ゆったりできる。
近くにお店ができたのでお弁当とか買って食べてもいい／バーベQ
- 利根川の河原**
しばすべり キャッチボール たこあげ 河川敷で遊べる サッカー場がある(試合ができる)
- 利根川の土手** 空が広い 川が大きい
- 龍禅寺三仏堂、米ノ井、地藏ケヤキ** 古くておもむきがある
- やまどり(足もみ占いサロン)**
足裏マッサージで身体の不調を見つけられる。
改善するヒントを見つけて実行して健康になる
- JSPI取手グリーンスポーツセンター**
体力づくり、広場の周りのサクラ←4月
- 焼き菓子 こなのか** おかしやさん おしゃれでおいしい
- 市内のカフェ**
- その他**

②そのスポットと図書館をどうつなぐ？

図書館で推しのお店を紹介しよう！

図書館で藝大生のワザの体験会

図書館で飲み比べ コーヒーもお茶も

図書館コンサート 楽器を展示
(吹ける・触れる)

神事について図書館で解説

公園の樹木の名前 由来を
図書館で調べられる

お茶やコーヒーの飲み比べ/ カフェの
店主さんからレクチャー

・絵本作家さんに読み方、選び方を
教わる
・テレビ局をうまく使う！
・守谷市のもりりん高野(高野公民館)
の図書室との連携



C班

①取手のお気に入りスポット

- 常陽建設ふじしろ図書館のカフェ
まず、ランチが美味しくて安い。(おかずが優しい)窓側に座っていると人の流れがなんとなくみられて、いやされます。
- パンダカフェ ・気楽に入りやすい ・おいしい ・テラス席がある
- 豊田堰 水門近くから見える田園風景、夕焼けがとても好きです。
- 小貝川橋 堤防から見る夕焼け
キジや水鳥など自然を感じられるところ
- 取手図書館 ・本がある ・学習席がある
- OMONMA TENT
・きれい ・非現実感がある
- FUYOUアリーナ藤代野球場
野球の試合をバックスクリーン脇から富士山がチラ見
- ごはんCAFEサルデーレ おいしい洋食がある
- 埋蔵文化財センター 期間展示で興味がある時代にグッときた
- 利根川浄水場 冬期、寒い時、朝、夕方に見える富士山
- 小貝川の土手のベンチ 時間がゆっくり 春は桜がみられる レジャー
- 花火大会 人が大勢集まって花火を見るイベントが気持ち的に盛り上がります。みんなが一つのものに感動しているところ
- 利根川沿いの道 ・いやされる ・景色がよい ・生き物が見られる
- 利根川沿い河川敷 大きく開かれた空間 落ち着きます
- 歌舞伎あられ池田屋
カフェテラスがおしゃれだった /おせんべいが美味しい カフェスペースがのびりして周辺が畑なので自然の中でくつろげる
- 取手駅前飲食店(数店)
おいしい食事 お酒があって楽しく過ごせる お店の人も楽しい
- たいけん美じゅつ場VIVA 展示のイベントがおもしろい
誰でも参加できる展示がよかった
- 旧伊奈町との境 月が富士山の上に見えた時(夕方)
- 山王小学校 地域との連携 美術のイベント
- さくら荘の桜 夜もライトアップされていてきれい
- とがしら公園 ・スーパーが近い ・遊具がある
- 取手駅周辺
西口、東口 人が行き交いまちの動きを感じ人間観察が出来る
- その他

②そのスポットと図書館をどうつなぐ？

本のトレードイベント/図書館内のカフェなので、そのカフェにも本を置く

取手市の災害等に関する書籍を月間で展示

自然共生図書館/取手の自然を撮影して図書館に展示しよう(関連図書もいっしょに)
※ほどよく絶妙とりでインスタ連動

・共同の展示会をする
・(なにか)とコラボして、市内の各場所に(キャラクターのパネル?)を
おいて、回る

取手市(旧藤代町含む)の
甲子園出場校の写真ギャラリー、
木内監督に関する本etc...

歴史に興味を持って
もらうための
展示・イベント

図書館より桜の見学

新図書館 花火大会の開催1ヵ月前から
特集やデジタルアーカイブ

本の自販機?貸出機を置く
ランダム...

河川敷に図書館で借りた本を読める
スペース(ベンチ・東屋他)を作る

駅周辺や市内のお店とコラボしておすすめ
本の紹介など 本があるまちづくり

図書館の屋上より夕方
富士山を見る

さくら荘桜まつり
新図書館で見学ツアー

駅前にゆっくり本
を読めるカフェを
作る

・本
・まちのスポットとのコラボ
・自然
・お祭り



D班

①取手のお気に入りスポット

- 小貝川の土手 水辺、遠景、水平線、夕陽、四季、水辺を覆う樹木
- 牛久沼近く 高台より筑波山と富士山が見られる場所がある
- 喫茶店「swing EVANS」
- つるしびな ひなまつりイベント 駅前から大師通り～市民会館
- 北浦川緑地
遊具(滑り台など)や健康強化にも良い運動できるものもあり、老若男女楽しめる
- 藤代商店街 歴史、街道 かつてのにぎわい 現状との格差
- 田中酒造店 取手唯一の江戸からの酒蔵 旧水戸街道
- きたらいの郷近くのミニ展望台
富士山も筑波山も利根川もよく眺めることができる。夕焼け時が感慨深い
- 小貝川のフラワーカナル 季節ごとのお花が見頃で写真映えます!
- ニチガス取手ウェルネスプラザのイベント ジャズビアガーデン
- 魚菜茶屋たへい(割ぼう料理屋) ひとりでのんびりゆっくり おいしい時間を過ごせる
- パンダカフェ
外に出てパンやお茶を楽しめるウッドデッキもあり、ペットも可なので、子育て世帯にもうれしいお店です!
- (利根川)河川敷 土手 土手から見る風景 ホットとする
- 岡堰の中島 ● 高井城跡地 ● 新取手駅前の居酒屋
- 焼き菓子 こなのか かわいらしいお店で焼き菓子が楽しめる
- 緑地運動公園 自転車やストライダーで子が自由に遊べる(放し飼いでできる)
- 桜坂 ● ふれあい道路のさくら並木
- ゆめみ野公園 子ども・子育て世代が多い。新しいまち。
- JSPI取手グリーンスポーツセンター 屋内外のプール 安い
- 自由空間WOODSTOCK 取手の軽井沢 森の中の自由空間
- 利根川土手 雄大な景色 鉄橋のひびき 散策

②そのスポットと図書館をどうつなぐ？

大師通りのイベント つるしびなの復活を!/
取手(や県南)の廃れそうな伝統を集めた
博覧会をひらく?

①図書館でイベント(座学)→②現地をまわる
年に何回も 郷土史の集い=街歩き まち探検
(取手の歴史を知る)子どもたちも大人も、お年寄りの方も楽しめるスタンプラリーなど

取手駅前のデッキでイベント→
図書館×ジャズ 駅から新図書館
へつながるデッキ

取手のお菓子屋さんを集めた
イベント(読書+コーヒー
のお供に)

公園:子どもが遊んで疲れたら
図書館で休み
→うるさい子どもが生きやすい
空間づくり

現役世代のテレ
ワークの拠点

● その他

- ・図書館にて高校生とシルバーのふれあい
- ・小貝川でのサイクリング 心地良い 延命寺での桜見
- ・障害者にもやさしい図書館
- ・体の不自由な方への移動図書館
- ・ふじしろ、戸頭、両図書館との役割、ネットワーク
- ・市をまたいだ図書館同士のネットワーク化



川や山を楽しめるよう展望台があると、
各々季節感も楽しめる

E班

①取手のお気に入りスポット

- 常陽建設ふじしろ図書館 こじんまりとゆとりとホットで、しっかりみんなまじめで
- 伊勢屋 だんご あんこ 安くてうまい
- 焼肉レストランたいかう うまい
- Veggi cafe Beans おいしい お姉さんががんばってやってる自然素材を使ったおいしいレストラン
- 東京藝術大学 時間を忘れる 浮世ばなれした感じ
- レストラン やま忠 くずきり
- PONY's CAFE 駅前のお店でいごちがとても良い!!
- 土手沿いの道 自転車で走ると気持ちがいい
- 桜のきれいな堰 岡堰 水神岬
- 歌舞伎あられ池田屋 かたやきせんべい
- 焼き菓子 こなのか 移転する前には通ってました!! ジンジャーシロップがお気に入りです
- 新六本店 おいしい奈良づけ
- 利根川の土手 青春のさんぽ
- 利根川花火大会 年1回のBIGイベント
- 福岡堰(小貝川) 夏あそべる
- ふれあい道路のさくら さくらのトンネル
- とがしら公園 四季を知ることができる
- セ・ビアン ケーキ 安くて美味
- まるやま千栄堂 和菓子屋さん 手づくりシロップのかきごおり
- 新大利根橋 取手や手賀沼の花火をゆっくり見られる。

②そのスポットと図書館をどうつなぐ？

おいしいものスタンプラリーをやってみる

移動図書館を食べ物屋さん

藝大生のお絵かきワークショップ/
藝大生に楽しい壁画描いてもらおう

さくらのスポットの紹介

図書館内にスイーツポップ
アップストア

図書館屋上で花火鑑賞

SNSで四季の共有
図書館の壁で映像を流す/
屋根のないバスで図書館

● その他

- ・保育園で図書館につれていく習慣づくり
- ・図書館内での大声大会
- ・ドライブスルー
- ・室内温度を自由に換えられる
- ・関東鉄道の走る図書館(イベント)



テーマ

本の可能性を探る

「とりでこども未来会議2026」として、市内7つの高校から32名の高校生が参加しました。従来の、議論し、模造紙に付箋を貼り、意見をまとめるWSではなく、「つくるをほぐす(英治出版)」の著者であり、「造形対話」を提唱する山内佑輔氏のファシリテートによる、形式を決め切らない非常に和気あいあいとした楽しいWSとなりました。まずは「あなたにとって本とは何か？」というテーマで一人ひとりが考えた後、会場に用意された200冊の本を使って、広い会場の中を行ったり来たりしながら、実際に本に触れ、並べ、その時の気持ちに合ったものを偶発的に手に取り、読書をして、本の一節をもとに話し合ったり、本の魅せ方を自分たちなりにアレンジしたりなど、これまでと違う身体性を伴う本との接し方を体験したのち、「私たちにとって本とは何か？」という意見を出し合いました。それにより、新たな本の見え方とともに「図書館にとっての本とは？」を確認する会となりました。

ワークの様子

本を使ったワークを通じて、一人ひとりが自分の考えを言葉にし、お互いに伝え合う対話の場を設けました。当日の様子をご紹介します。

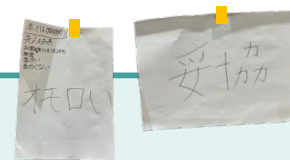
①あなたにとって本とは何か？

まずは1人ひとりが「あなたにとって本とは何か？」という問いへの回答を紙に書き出しました。本の魅力を捉えた意見もあれば、本との距離を感じていることが伝わる率直な意見も。回答はすべて壁に貼り出し、時折笑いも起こる和やかな雰囲気の中、お互いの考えを伝え合いました。



貼りだされたキーワードの一部

- 必要不可欠
- おもしろい
- 人生を豊かにする
- 想像の世界。後世に伝えるためのもの。
- 学習ができる
- 学び、新しい価値観、感情の受け取り
- 無くてもいいもの
- めっちゃきらい！
- 妥協
- たいくつ
- たまに読みたいくなるけど読めない など



②今日の気分の色を選ぶ

空気がほぐれてきたところで、自分の感覚を言語化するワークを重ねます。会場に並べられた色とりどりの紙のなかから今の気分に合う色を選び、その理由について伝え合いました。



③本を並べる

かごに入った状態の取手図書館の本200冊を、全員で協力して並べていきました。作業を進めるなかで、本を手にとって表紙を眺めたり、自分たちでテーマを決めて大まかに分類したりする様子が見られました。



開催日時

2026年7月28日(火)
13:30-16:30

講師

学習環境デザイナー/新渡戸文化学園 VIVISTOP
NITOBE コミュニティクリエイティブディレクター/東京造形大学特任准教授
山内佑輔氏

参加人数

32名

場所

福祉交流センター
多目的ホール



大学職員、公立小学校の図工専科教員を経て、新渡戸文化学園へ着任。子どもたちがやりたいと思う気持ちのままにつくったり試したりできる、偶然性にかかれた空間「VIVISTOP」を新渡戸文化学園内に開設し、その運営を担当。2025 年から東京造形大学特任准教授に就任。「造形とコミュニケーション」を軸に、企業・行政と協働しながら、多世代が創造的に関われる場の設計・運営を行い、対話から新しい価値を共に生み出す。

④色から本と出会い、読む

ここで、②で選んだ色紙が再登場。色紙の色が使われている本や、色の印象に近いと思う本を一人1冊選びました。はじめて手に取る本や、興味を持ったことのないジャンルの本を選ぶ生徒も。選んだ理由を共有したあとは、数分間の読書タイムを設けました。



後ろから読んでも、読みたいところから読んでみても大丈夫。本との出会いを楽しんでみましょう！

⑤気になったキーワードを見つける

本を読んで気になったキーワードを一人1枚紙に書き出し、その理由をグループで共有しました。その後、キーワードと本を机に並べ、全員で鑑賞。キーワードをきっかけに、気になった本を自然と手に取って内容を確認めたり、そこから参加者同士で本について言葉を交わしたりと、本を介した対話が自然に生まれていました。



このキーワードの英単語、最近授業で習った！

友達のことを思い出すキーワードだなあ

なんとなく語感がいいかんじ

キーワードの紙でブックカバーつくってみた！
＼いいね！／

キーワードの一部

- たたいた数だけ、不幸が遠のきます。
- だれもこれがへびだなんて気づかなかったでしょう？
- 自我＝世界 一元論
- わたしたちも大きくなる ぱんと いっしょに
- 涙が出るドライアイもある
- 『枕草子』の内容はめちゃくちゃイジワル
- による
- terrible

このキーワードは、どういう意味だろう？

どうしてこの本からこのキーワードが出てきたんだ？！

最後に、この2時間のワークで感じたことをみんなでも言語化してみましょう！

次のページで、ワーク後の対話の様子を掲載しています。

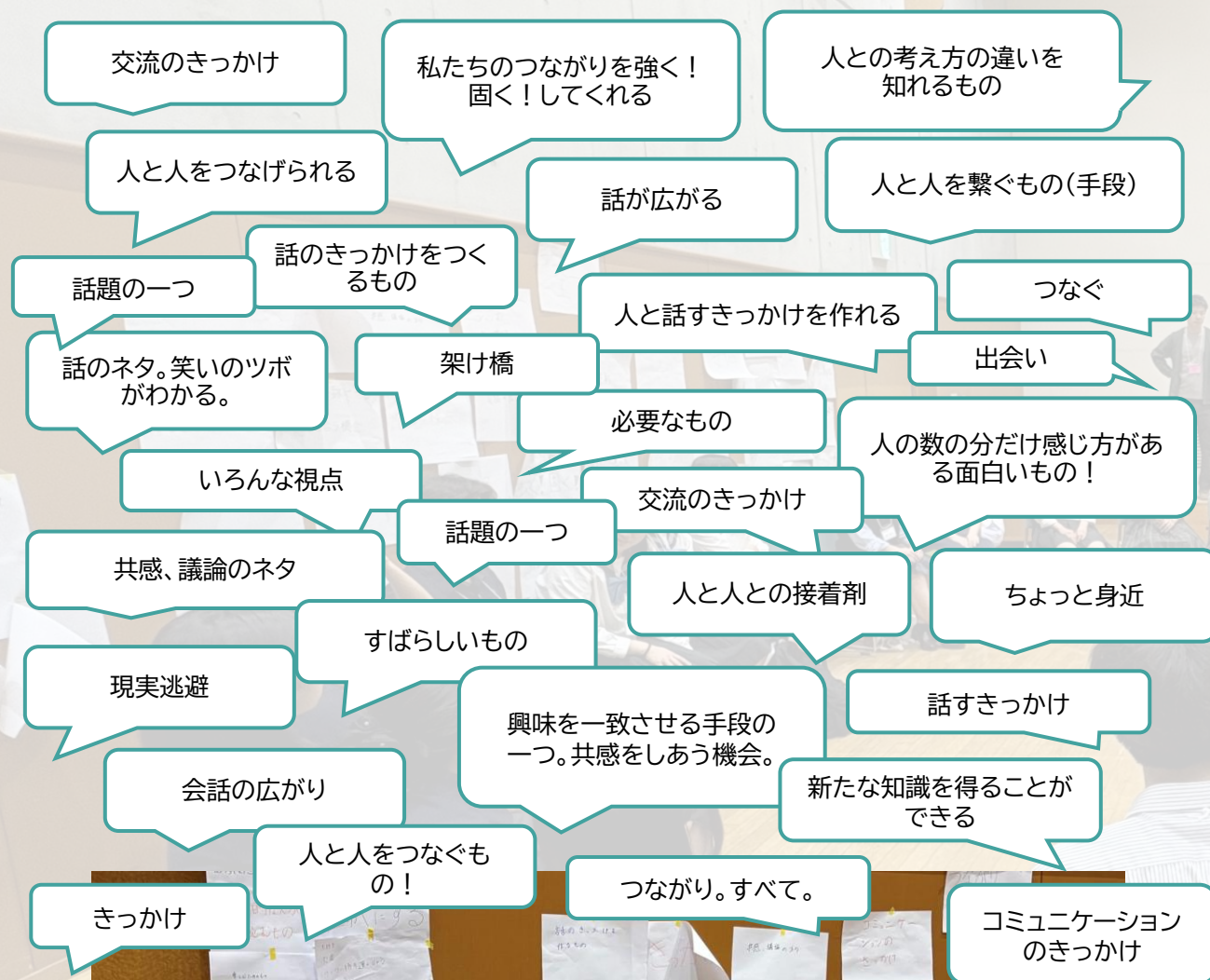
テーマ

本の可能性を探る

ワークを終えて

ワーク後、全員で円になり、この日の体験を通じて感じたことや考えたことを言語化しました。

●本が人と人の間にあったとき、私たちにとって本とは何か？



●図書館にとっての本の役割とは？

- 新体験ができる！人との交流が深まる
- 好きなジャンルとか一緒に、仲が深まる。人と人とのつながりができる。語彙力深まる。
- 五感の補助
- 味がある
- 新たな世界、人との交流の入り口
- 話題、交流の場
- 人と人をつなぐことで、繋がりによって新しい世界を知れる
- 人との繋がりの場
- 交流の源
- 自分なりの考えを生み出せる。インターネットとかだとほかの人の考えが混じってるし、「場所」があるから頭に残ると思う
- 新しい体験をさせてくれる
- 新しい世界の始まり
- 新しいジャンル、世界、知識と出会う。気分を変える。
- 新たな考えを知る
- コミュニケーションを手助けする存在
- 意見を出さすきっかけ。理解を深める。落ち着かせる。
- 他者との交流、自分の知識を広げられる場所
- その本に関する感想を言い合い、新しい人との仲を新しく作る役割。誰かとの交流の基。
- 人と人をつなぐコミュニケーションの架け橋
- 一人で学びみんなで共有する
- ただ知識を得るだけでなく、人や物語と触れ合うことを助ける役割
- 自分の考えを深めるもの 同じジャンルが好きな人をつなげるもの
- 自分と向き合う
- 学習。コミュニケーション。
- インターネットだと、サイトによって内容が変わったり、AIが勝手に不確実な情報を提示してきたりするので、「本」という(ほぼ)確実な情報を提示してくれる媒体の方が信用できるし、人との繋がりのもとにもなっている。
- 知識を交流させるもの
- 正確性
- 紙に触れる機会

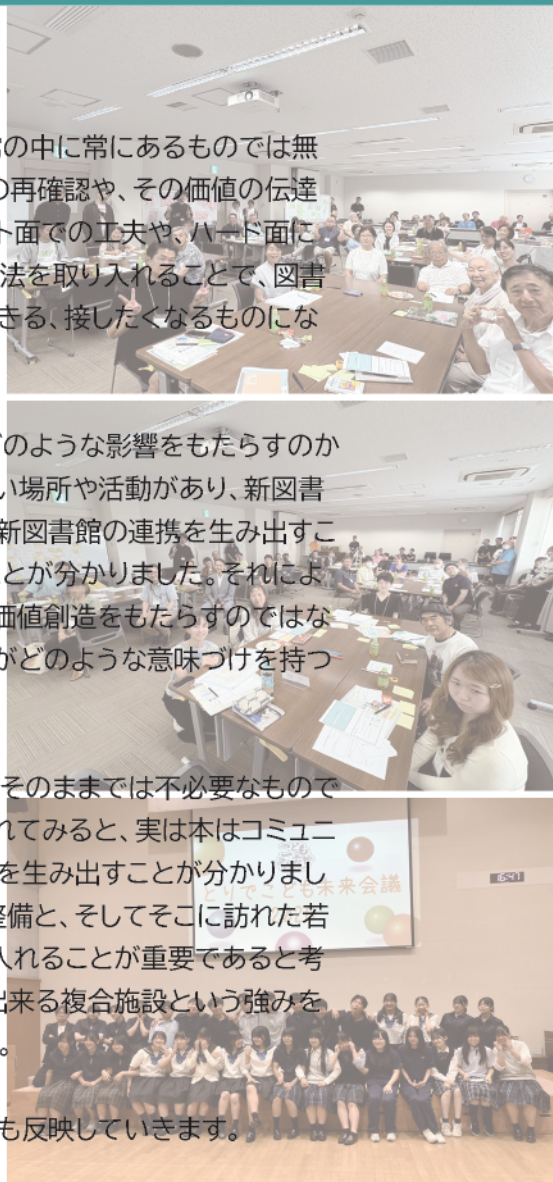
●まとめ

- 「あなたにとって本とは何か？」という初めの問いかけに対しては、「必要不可欠」「おもしろい」といった意見もあるものの「めっちゃさらい！」「妥協」「たいくつ」「無くてもいいもの」などの否定的な意見も多く見られ、デジタルネイティブ世代の率直な意見を知ることになりました。
- ワークを経た結果、「私たちにとって本とは何か？」という問いかけには「交流のきっかけ」「人と人をつなげられる」「私たちのつながりを強く！固く！してくれる」といったコミュニケーションの真ん中に本があるといった、それまで気づかなかった新たな価値をほぼ全員が実感しました。
- その結果、「図書館にとっての本の役割とは？」に対しては「新たな人とのつながり」、「新たな世界、体験への広がり」といった意見が多く見られ、本を所蔵・配架するだけでなく、本から広がるコミュニケーションや新たな体験の場としての工夫をソフト面、ハード面の双方から新図書館で検討していく必要があることが分かりました。

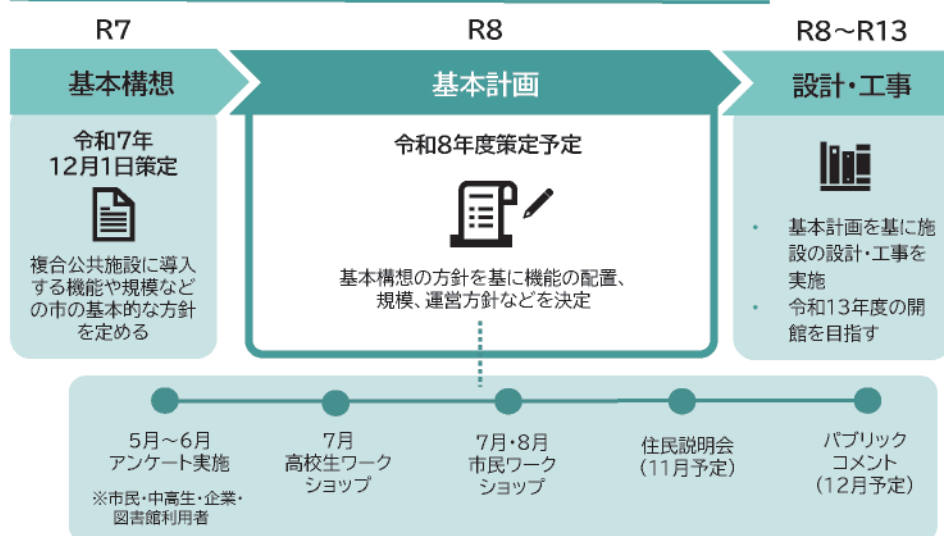


結果の総括(全3回を通じて)

- 第1回WSでは本は重要であると認識しながらも、もはや日常の中に常にあるものでは無くなってしまっているという意識も垣間見え、紙の本の価値の再確認や、その価値の伝達についての様々な方向性が議論されました。新図書館はソフト面での工夫や、ハード面における本の魅せ方など、これまでの図書館以上の魅力発信方法を取り入れることで、図書館が蓄積してきた「知」にもっと多くの市民が接することができる、接したくなるものになることが必要と考えます。
- 第2回WSでは、駅前だけではなく、市内全体に新図書館がどのような影響をもたらすのかを模索しています。市内全体には様々な魅力的で過ごしやすい場所や活動があり、新図書館がその魅力の集約と発信基地としての役割や、その場所と新図書館の連携を生み出すことは重要であり、そして、そのためのさまざまな方策があることが分かりました。それにより、市内全体で文化の創出や活動が生まれ、市民の新たな価値創造をもたらすのではないかと考えられるため、市全体のまちづくりの中で新図書館がどのような意味づけを持つのかも整理しながら検討を進めていきます。
- 高校生WSにおいては、デジタルネイティブ世代にとって本はそのままでは不必要なものであるという可能性があることを示唆しつつも、実際に本に触れてみると、実は本はコミュニケーションや活動の真ん中にあるものであるという強い実感を生み出すことが分かりました。まずはいかに来なくなる図書館とするか、という入口の整備と、そしてそこに訪れた若い世代が本を通して新たなコミュニケーションや体験を手に入れることが重要であると考えます。その上で、交流や体験の機能と地続きになることが出来る複合施設という強みを最大限活かした図書館づくりを目指す必要があると考えます。
- 全3回のWSで得られた様々な意見は今後のサービス検討にも反映していきます。



複合公共施設基本計画の今後のスケジュール



- 基本計画は令和8年度中に策定予定です。策定に向けて、別途、住民説明会やパブリックコメントなどを通じて、市民の皆さまから広く意見を伺います。
- 基本計画の策定と並行しながら設計を進め、その後工事に着手し、令和13年度の開館を目指して整備を進めていく予定です。

発行元

取手市 都市整備部 中心市街地整備課
〒302-0025 取手市西 2-35-3 分庁舎 2 階

TEL:0297-74-2141(内線:3017・3018)
FAX:0297-72-6040
MAIL:chushin-seibika@city.toride.ibaraki.jp

取手市 教育委員会 取手図書館
〒302-0004 取手市取手1-12-16

TEL:0297-74-2141(内線:3140・3141)
FAX:0297-74-8398
MAIL:toshokan@city.toride.ibaraki.jp